

# チム九

## 印刷を支え加工を活かす

### 営業部門

# 浜本 泰雄

旭紙工株式会社の営業部門にて、主に外部の加工会社への発注業務を担当する浜本泰雄さん。2016年の入社から断裁部門や場内作業部門を経て着実にキャリアを積み重ねている浜本さんに、印象的だった業務や、仕事を続けてこられた秘訣、仕事とプライベートとの両立のコツなどについて聞きました。



「日々業務に携わるなかで、どのようなときに自身の成長を実感されますか。」

最終梱包のためのケースや袋などを、先を読んで事前に発注しておいたときは、これまでの経験からしっかり学んでこられたな、と実感します。実は、今までいざ作業をしようとした場面で「ケースがない」「袋がない」という事態に直面してあわてふためくというミスを多く経験してきました。そのたびに、部長に教わりながら発注の業務を覚えてきたのです。例えば最初の年度で失敗をしてしまったも、次の年に似た案件があった場合には確実にこなせるようになってきています。今でもミスをしてしまうことはありますが、先輩方が私の失敗のリカバリーをしてくださる姿なども見て、自分もこうありたいと思います。失敗し、フォローされて学ぶ。そのすべてが糧になっていると感じています。

「最後に、仕事とプライベートをどのように両立させていますか。」

「楽しむ場面ではすべて忘れて楽しむ」をモットーに、オンオフの切り替えを大切にしています。仕事をしているときはもちろん集中しますが、プライベートでは思いっきりエンジョイしていますよ。趣味はカラオケ。先輩や同期と全力でアニメソングを歌い切れば、ストレスも解消します。

今後の目標について、「自分の仕事はまだまだ粗が目立つ。勉強をして、さらに精度を上げていきたい」と語る浜本さん。今後もさらに成長を続け、旭紙工にとって欠かせない存在となっていくでしょう。

「失敗から学んでこられたのですね。なかでも最も忘れられない失敗談はありますか。」

外注部門になってはじめての年に、大きな内職の案件を取り扱うことがありました。しかし、私のミスで各担当者と連携がうまく取れておらず、結果的に加工会社から「出来上がった製品を明日までに引き取ってもらわないと困る」とお叱りを受けてしまったのです。その瞬間は頭が真っ白になってしまい、自分一人では解決ができず、井上常務に物流部門のトラックをその日のうちに一台手配していただきました。もちろん常務だけでなく、加工会社や物流部門にも大きな迷惑をかけてしまい、今でも深く反省しています。

「その後は、どのようにミスをなくす工夫などされてきたのでしょうか。」

予定表を作って、できるだけ事前にスケジュールを細部まで把握することを心がけています。今では、加工会社や物流部門とのやり取りももう少しうまくこなせるようになったという実感があります。

また、失敗した経験は、積極的に後輩にも伝えていきたいと考えています。特に私のあとに場内作業部門に配属された森さんには、少しでも参考になればと思ってよく失敗談を話すようにしています。「こうしたほうがいいよ」と森さんにするアドバイスは、そのまま自分自身への戒めにもなり、自分が助けられていると思っているくらいです。

「どのようなときに、最もやりがいを感じますか。」

種類も数も多いタスクを、一つひ



とつこなしていくときですね。営業部門なので、さまざまな関係者に連絡を取らなくてはならない場面も多く、一つの大きな課題をこなすというよりは、細かいタスクを漏れなくやり切るスキルが求められていると感じます。現在は「CD」リストの導入も検討しています。一つひとつの小さな「できた」が寄り集まって、大きな達成感に繋がるイメージです。やりがいが大きく、「飽きる」とは無縁の仕事ですね。

「7年間、仕事を続けられた秘訣はありますか。」

できるだけ、人の良いところや楽しい時間に目を向けるように心がけています。忙しく疲れているときは、ついついマイナスの面に気を取られてしまいがちだと思いますが、そんな状況だからこそ「こんなときにこの人に助けてもらった」「このときはこうしてもらってありがたかったな」など、感謝の気持ちを意識的に思い出すようにしています。そうやって日々の仕事に取り組んでいたら、あっという間に7年経っていました。

### 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：17億円
- ◆ 従業員数：200人

## 4年の軌跡

### 瓜破工場 折部門



折部門 課長  
てら やま こう さく  
寺山 幸作さん

今日までの間、当社のみならず世界的に大きな影響を与えてきた新型コロナウイルス。折部門ではどのようにコロナ禍に挑み、その壁を乗り越えてきたのか。前回の部門紹介から4年のときを経て、現在の姿とこれまでの軌跡を追います。課題解決にあたっては、技能実習生たちの成長も大きな力となっているようです。

#### 所属人数

昼勤務		夜勤務	
社員	7名	社員	2名
技能実習生	2名	技能実習生	10名
アルバイト	5名		

#### メンバーをピックアップ

##### ビールさん

言葉の壁も仕事の壁も突破してくれる頼れる存在！

2~3年前に入社し、当初より日本語が上手になりました。仕事の覚えも早く、自身が覚えたことを周囲の皆に教えてくれるので大変助かっています。現在力を入れている社員教育では、私の通訳も務めてくれています。また、夜勤務の技能実習生たちの責任者的役割もしており、仕事の説明やトラブル対応などに尽力しています。そのぶん苦労も多いと思いますが、まさに皆の「まとめ役」であり、「なくてはならない存在」です。

##### 落 優輝さん

あらゆる機械を使いこなす頼れるリーダー！

ベテラン社員で、夜勤務の責任者として仕事の段取りや人員配置などを任せています。折部門に異動した当初は仕事を覚えることに苦労していましたが、諦めることなく取り組み、今ではどのような機械でも扱えるようになりました。リーダーとして「信頼を置く存在」です。



#### 2019年からの変化

##### 2021年

折部門へも忍び寄るコロナ……  
できることは感染予防のみ

メンバーが代わる代わるコロナに罹患。一方で、幸いにもクラスターは発生しませんでした。とにかく皆に手洗いとうがい呼びかけ、感染予防に努めていました。

##### 2020年

新型コロナウイルスの発生により、揃っての出社ができない！

コロナ禍になり、出社人数を抑えるためにシフトの調整が必要になりました。皆に休んでもらうことに精神的な辛さを感じていた時期です。技能実習生は母国への一時帰国も叶いませんでした。

##### 2022年

技能実習生の多くが帰国し、  
人員不足に頭を抱える日々

秋頃から技能実習生の約半数が母国へ帰国。夜勤務の人員不足に陥り、その苦労は現在も続いています。社員教育に力を注ぎ、個々のスキルアップによってどうにかこれまで通りの業務を行えるよう努力している次第です。

#### 印象に残っている出来事

技能実習生たちの成長ぶりに  
嬉しさを噛みしめる

かつて機械のセットは日本人しかできない作業でしたが、ベトナムの技能実習生もベテランになり、メインで機械のセットができるようになりました。その他にもほとんどの仕事を任せられるほどに成長し、感慨深い思いです。



#### 今後の目標

長期雇用で成長を遂げ、業務効率化と  
小ロットでの利益計上を実現する

折部門は細密な仕事が多く、どうしても機械のセットに時間がかかってしまうことが課題です。時間短縮は個人の技術力によるところが大きく、各々が多品種・小ロットに対応する力をつけなければなりません。しかしながら、技術を身につけるには1年近くの経験が必要なため、長期継続雇用に向けた離職予防対策も欠かせません。そのためにも、公私ともにコミュニケーションを大切にしたいと思います。

また、現在小ロットで赤字を生む商品が数多くあることも課題です。社員育成に力を注ぎ、多品種・小ロットで利益を上げられる部門になることを目標としています。

なお、折部門は毎年アットマークの目標を達成しています。その際の報奨金が集まっているため、十分な金額になれば皆で食事を開きたいと思っています。